

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	血液透析患者におけるロコモティブシンドロームとQOLの関連及び栄養療法による介入研究
所 属 機 関	新光会村上記念病院 栄養科
氏 名	北林 紘
<p>【背景】ロコモティブシンドローム（ロコモ）とは、運動器の障害によって、介護・介助が必要な状態になっていたり、そうなるリスクが高くなっていたりする状態をいう。HD患者がロコモを有するために通院が困難となれば、生命が危ぶまれることになる。本研究は、①HD患者におけるロコモ有病率を調査すること、さらに、②ロコモを有しているHD患者を対象に、トレーニングに栄養療法を併用した時の有効性を検証するため実施した。【方法】①外来HD患者76名を対象に、ロコモ度テスト、QOL評価、体組成評価、栄養評価、生化学検査を実施および測定した。統計解析は、ロコモ度テストにより非ロコモ、ロコモ度1、ロコモ度2の3群に分け、クラスカル・ウォリス検定を行った。危険率は5%未満を有意性ありとした。②対象者はロコモと判定され、研究への参加承諾を得られた40名とした。対象者をコントロール群：ロコトレ（片脚立ち：左右脚1分間×3回、スクワット：5回×3セット）のみを週4回以上実施する群と、介入群：週4回以上のロコトレに加えて栄養補助食品（ロイシン1.2g、ビタミンD800IU）を毎日摂取する群の2群にランダムに分類した。主要評価はQOL評価、副次的評価はその他の項目とした。3カ月の介入後、評価項目の再測定を行った。結果はITT解析とし、介入後、群間内前後比較、変化量による群間比較を実施した。【結果】①対象者の背景は、性別：男52名、女24名、年齢67.5歳、BMI20.5kg/m²、透析歴7年であった（いずれも中央値）。ロコモ度は、非ロコモ：4名（5%）、ロコモ度1：19名（25%）、ロコモ度2：53名（70%）であった。3群間に有意な差を認めた項目は、身体的サマリー（非ロコモ：54.5、ロコモ度1：43.4、ロコモ度24.8、点、いずれも中央値）、身体機能（56.0, 47.0, 25.4、点）、日常役割機能、身体（55.7, 49.1, 32.5、点）、体の痛み（52.4, 54.6, 40.6、点）、日常役割機能、精神（54.0, 56.1, 39.4、点）、骨格筋指数（kg/m²）：7.1, 6.7, 6.0、体脂肪率（%）：18.2, 21.7, 26.8、phase angle（°）：5.9, 5.1, 4.2、細胞外水分比：0.383, 0.388, 0.399、Cr（mg/dL）：12.62, 12.03, 9.67であった。②ロコトレ+栄養補助食品群は介入前後で、立ち上がりテスト（名）：前、40cm片脚立ち成功1, 20cm両脚立ち成功12, 20cm両脚立ち不可5、後、40cm片脚立ち成功3, 20cm両脚立ち成功12, 20cm両脚立ち不可3、2ステップテスト（名）：前、1.3以上は0, 1.1~1.2は6, 1.1未満は12、後、1.3以上は2, 1.1~1.2は8, 1.1未満は8で有意に成績が向上した。変化量による2群間比較ではいずれの項目も有意な差は認めなかった。【今後】本研究をパイロットスタディとし、ロコトレに栄養療法を併用した際の効果をさらに検証したいと考える。</p>	